

様式第2号（第5条関係）

2016年12月16日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員 重田雅世 

このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成28年10月10日 ~ 平成28年10月13日まで
- 2 旅行先 馬路村、上野市、上勝町
- 3 目的 先達地視察
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	平成 28 年 10 月 10 ¹¹ 日 9:00 ~ 11:00
視 察 先	高知県馬路村
調査事項	ゆずの特産品を活かしたまちづくり
対 応 者	産業建設課西岡喬、馬路村農協 長 野 桃 太
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背 景 ② 特 徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	別紙

ゆずの特産品を活かしたまちづくり

馬路村は現在人口約940人、村の面積の96%が山林で農地が少なく段々畑でゆず栽培（45ha）を行っている。

昭和38年、森林組合がゆず苗を育成し、村が苗木に助成し栽培が始まりその後農産物ということで農協が参入。昭和56ゆず集荷場が完成、搾汁開始。昭和61年ポン酢醤油発売を皮切りに、ゆず加工品の商品開発に取り組み、現在では50種類以上のゆず製品を製造全国販売している。又、最近は化粧品の研究と製造も行っている。馬路村農協は単独農協として組合員数604人、組合員戸数348戸、ゆず出荷戸数195戸、約人口の1割以上の96名が農協で働いている（平成27年7月31日現在）集荷品目はゆずと唐辛子のみで、お米は集荷していない。ゆず農家から1キロ当たり230円で集荷し、ゆず加工品は年間30億円の売り上げがある。

ゆずの搾りかすや傷の入った皮は、村の製材所から出る樹皮と混ぜて発酵、堆肥を作りゆず農家へ無料で配布。循環型ゆず農法を実践している

考察一馬路村産の杉を使った「ゆずの森加工場」には、加工施設、受注センターや荷造り場、トラックターミナルがある。全国からの注文や問い合わせを受け付ける若い女性職員が10人余り、にこやかに対応している姿を見学、商品の説明書等のカタログも手描きの温かみのあるデザインで、若い力を結集したとの事。説明者の担当職員も1ターン、特産品のゆずで雇用を生み出し、小さい村ながら若者が生き生きと働いている姿に感銘を受けた。

日 時	平成 28 年 10 月 11 日 15:00 ~ 17:00
視 察 先	土 佐 市
調 査 事 項	健康づくりの取り組み
対 応 者	健康づくり課長・保健師、議会事務局次長
1. 視察目的	別紙
2. 視察内容	
① 背景	
② 特徴	
3. 主な質疑	
4. 考 察 (感想、政策提言、課題など)	

健康づくりの取り組みについて

☆子どもの健康づくりアクションプランの概要

趣旨

市民が健康で安全・安心に暮らせるまちづくりの実現に向け生活習慣が確立されていない子どもをターゲットとして、子どもの健康問題を総合的に検証するとともに、「身体」と「心」の健康づくり個性と豊かな人間性の成長を支援し、生活習慣病をはじめとする疾病予防の推進を図る

幼児期における取り組み

施策目標 親子で「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムを整える

家族揃って楽しく食事をする

いろいろな運動や遊びを楽しむ

子どもの受動喫煙を防ぐ

保護者がタバコやアルコールの害を知る

豊かな心を育む

健やかな心を育む

学童・思春期における取り組み

施策目標 規則正しい生活リズムと望ましい食習慣を身につける

家族揃って楽しく食事をする

いろいろな運動や遊びを楽しむ

元気なからだをつくる

タバコを吸わない 飲酒をしない

豊かな心・健やかな心を育む

豊かなコミュニケーションを築く

☆とさっ子健診（小児生活習慣病予防健診）概要

目的

子供の頃から健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身につける

対象者 小学5年生及び中学2年生のうち希望者

健診当日及び結果説明会に保護者同伴が可能な方

健診の内容 ①問診 ②身長・体重・腹囲 ③尿検査 ④血圧測定 ⑤診察

⑥採血（学校健診と違うところ）⑦保護者向けの健康

チェック（子宮頸がんと乳がん検診をセット）⑧学生に

によるクイズ等のお楽しみコーナー

考察

高知県の子供の肥満割合は全国ワースト1、土佐市の子供の肥満度は高知県平均を上回っている。就寝時刻・朝食摂取状況、いじめの認知件数、不登校児童生徒の出現率を現状をデータ化し、家庭・学校・地域・医療・行政が連携して子どもの健康づくりを推

進。大人の長年の生活習慣を改善することは難しいので、子どもの頃からという視点に共鳴した。

食習慣のみならず幼児の頃から、茶道などの伝統文化芸術の体験の取り組みも注目に値する。受診費用も無料で行政の本気度が伝わった。

(

(

日 時	平成 28 年 10 月 12 日 14:00 ~ 16:00
視 察 先	徳島県上勝町
調査事項	○ 彩 (いろどり) 事業 ○ インターネット事業 ○ ジュニアユース (セニア・ウェイスター) の取り組み
対 応 者	森 周一 副町長 (株 彩 1 2 3) 栗飯原 登吾 (株 113 2 3)・ NPO 法人 彩 1 2 3 代表 役員
1. 視察目的	別紙✓
2. 視察内容	
① 背 景	
② 特 徴	
3. 主な質疑	
4. 考 察	
(感想、政策提言、課題など)	

☆彩（いろどり）事業

もみじ、柿、南天、椿の葉っぱや梅、桜、桃の花などを料理のつまも のとして商品化したもの。女性や高齢者でも軽量で綺麗であるため、負荷なく取り扱うことができる。当時農協職員だった横石知二（現・株式会社いろどり社長）が、昭和61年4件の生産者からスタート。現在の販売額は約2億6000万円、年収1000万円以上稼ぐおばあちゃんもいる。生産者、農協、市場をネットワークで結び、受発注情報、全国の市況情報を迅速に共有し需要に応じて葉っぱを供給する。平成24年7月からタブレット端末を導入し高齢者の方でも使いやすく工夫をしている。

☆インターンシップ事業

過疎化が進む町に後継者を呼び込むために平成22年8月事業開始。6年間で600名を超える若者が全国各地から集まり、30名以上が町内に移住・就業。転入人口が転出人口を上回ることにもつながり、インターンシップ研修生を受け入れることで高齢者も仕事に張り合いが生まれ、以前より元気になるという効果も出ている。

☆ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）宣言

未来の子供たちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため2020年までに上勝町のごみをゼロにする。ゴミ収集車の通らないまちとして全国的にも有名で、ごみと燃やせるかどうかではなくリサイクルできるかどうかで分別（13種類45分類）し、リサイクル率79%ごみ調査結果全体の7割が生ごみ、「電動生ごみ処理機」購入費用5万円のうち4万円を補助、全800世帯の8割の家庭で使用。

考察一葉っぱビジネスの視察担当は株式会社いろどり、画像を見せながら「葉っぱ生産者への情報は、一部の人に偏らないように配慮。上勝町の子どもは小中学校は地元、高校は徳島なのでUターンが少ない。インターンシップ事業により20代~30代の若者の1ターンが増えている」と、まるで行政職員から説明を聞いているようでした。ごみゼロの視察担当はNPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー、「町民自ら、ごみステーションへ家庭ごみを持ち込んで分別。また町内から出た不要なものを、町内外の必要な人が持ち帰ることが出来、年間約10トンの持ち込みに対し8トンが持ち帰られている。古い着物や生地を地元の方たちがリメイクし販売している」高齢比例での日本共産党の菜の青年政治家化率51.89%の上勝町では、自宅からゴミステーションまでの距離が遠い高齢者に対しては、1ヵ月に1度ごみ支援員が車で送迎している。人口1,600人余りの小さい町で、高齢者が生き生きと若者とも交流しながら生活している様子が分かり、内発的地域づくりの原点を感じた。